

2019年度

事業報告

自 2019年 4月 1日

至 2020年 3月31日

公益財団法人 正力厚生会

〔がん患者支援事業〕 計 1 8 8 1 万 1 7 3 4 円 (予算 1 9 0 8 万 5 0 0 0 円)

＜患者団体への助成＞（継続事業）

全国のがん患者会や支援団体を対象に、資金不足でイベントやプロジェクト、研修などの活動が十分にできない団体を一般公募し、専門委員会での審査を通過した団体に活動資金を助成する事業。今回は全国の 2 7 団体に助成した。

助成金は、がんに関する正しい知識を学ぶ市民講座の開催や、患者や家族の集う「がんカフェ」「がんサロン」の開設、就労や結婚など若年性がん患者特有の悩みについての情報発信、がんに関する絵本や患者の手記集を学校や病院に寄贈する活動などに充てられた。

(予算 7 8 8 万 5 0 0 0 円、支出 7 6 3 万 4 8 7 9 円)

＜医療機関への助成＞

2 0 1 9 年度は、正しいがん情報普及を目指す国立がん研究センターの「がん情報ギフト連携プロジェクト」に 5 0 0 万円、帝京大学医学部の渡辺清高准教授が主導する「がんの在宅療養支援プロジェクト」に 1 0 0 万円を助成した。

「がん情報ギフト連携プロジェクト」は、正しいがん情報普及のために、地域の図書館にその窓口役を務めてもらう事業。国立がん研究センターが作成したがんの種類別冊子セット約 4 0 冊を図書館へ寄贈し、地元の拠点病院と連携して啓発活動を行う。1 7 年度から進めていた冊子セット寄贈事業の発展強化を図った。

1 9 年度は北海道をモデル地域に選び、それまで道内は 2 館だけだった冊子セット配布図書館を 3 4 館まで増やした。9 月には札幌市で図書館司書と拠点病院の相談員らを対象とした研修会を開き、道内全域から約 8 0 人が参加した。会場では、図書館でがん情報を啓発する市民向け講座を開いた事例などが発表され、病院と図書館の効果的な連携の進め方が話し合われた。さらに、地域別のグループ対話で交流することによって、参加者は図書館と病院の垣根を超えた提携の第一歩を記すことができた。

1 2 月からは、同センターが専門家の協力で選定したがん関連選書 4 6 冊の巡回展が各図書館で始まり、「がん情報の窓口としての図書館」を市民にアピールする動きが広まった。

「がんの在宅療養支援プロジェクト」は、正力厚生会が 2 0 1 2 ～ 2 0 1 7 年にかけて交付した助成を基に、全国で数多くの市民向けフォーラムや専門職向け研修会を開催してきた。今回は、価値あるそれらの成果を動画などでネット公開する情報発信の強化などを主な目的に、1 0 0 万円を助成した。

19年度は同プロジェクトのサイトをスマートフォン対応に改め、内容も逐次更新。在宅での看取りやアドバンス・ケア・プランニングへの関心が高まる中、それまで月間5000件程度だったサイト閲覧数は、19年秋には4万件前後を維持するまでに増えた。

(予算600万円、支出600万円)

<読響ハートフルコンサート> (継続事業)

がん患者やその家族の心を癒すため、読売日本交響楽団員を全国各地のがん診療連携拠点病院に派遣して、弦楽四重奏などを披露した。2019年度は一般公募に応じた医療機関の中から、地域バランスなどを考慮して選定した以下の全国8会場で開催した。各会場では、患者とその家族や医師、看護師などの医療従事者約100人が集まった。

会場からは、「入院で気が滅入る日々だったが、素晴らしい演奏で元気をもらった」(女性患者)、「病気で体が弱っているから余計に心にしみた」(男性患者)、「生の演奏を聴く機会がないので感動で泣きそうになった」(女性患者)などと、称賛の声が数多く寄せられた。

各会場でのコンサートの様子は、読売新聞の地域版に掲載された。

- | | | | |
|---|------------|---------------|--------|
| ① | 京都桂病院 | (2019年 6月20日) | 京都市 |
| ② | 大阪府済生会中津病院 | (同 8月27日) | 大阪市 |
| ③ | 広島大学病院 | (同 8月28日) | 広島市 |
| ④ | 金沢医科大学病院 | (同 9月12日) | 石川県内灘町 |
| ⑤ | 福井県立病院 | (同 9月13日) | 福井市 |
| ⑥ | 長野赤十字病院 | (同 10月 4日) | 長野市 |
| ⑦ | 東京都立駒込病院 | (同 11月 8日) | 東京都文京区 |
| ⑧ | 唐津赤十字病院 | (同 12年 2日) | 佐賀県唐津市 |

(予算520万円、支出517万6855円)

以上